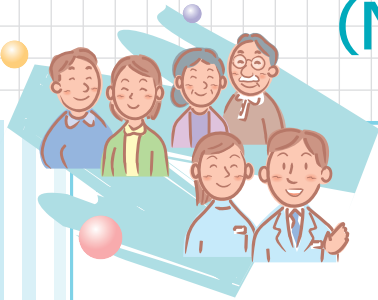


栄養サポートチームについて (NST : Nutrition support team)

栄養治療部



栄養は人間が生きていくのに必要不可欠なものです。しかし、入院している患者さんの場合、病気そのものや治療などによって食事が十分に摂取できない場合や、食事をしていても必要な量を満たしていないことが少なくありません。このような状況が続くと栄養障害に陥ってしまいます。

では、栄養不足はなぜいけないのでしょうか？

低栄養状態では、手術やけが、やけど、床ずれなどの悪化や回復の遅れにつながります。また、免疫力の低下を招き、感染をおこしやすくなってしまいます。元々、病気などによって、抵抗力が落ちている患者さんにとって、栄養不足になっているとさらに悪影響を及ぼします。また、筋力などをつけるためのリハビリに取り組んでも、栄養不足であれば、筋肉をつける材料がないために効果が得られません。



栄養サポートチーム

そこで、私達栄養サポートチーム(NST)は、栄養が不足している患者さんの栄養管理を専門に行うチームとして活動させていただいています。このチームは医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士、歯科衛生士など多くのスタッフで構成されています。それぞれの知識やスキルを生かして、患者さん一人一人の病気や治療にあった栄養管理ができるように努めています。

全ての患者さんに早くよくなっていただきたいとの思いをもって、各病棟を回診させていただいています。

NSTの取り組み

1. 栄養状態の評価について

必要エネルギー量からみた食事摂取状況の把握
熱量測定による消費エネルギーや呼吸商^(*)の評価
体組成(筋肉・脂肪の量やバランス)の評価

2. 経腸栄養(腸を使った栄養)に関して

個々に適した栄養剤の選択・投与方法に関する助言
胃瘻(胃に直接栄養剤を注入する栄養法)の管理

3. 静脈栄養(輸液による栄養)に関して

個々に適した輸液内容の提案や輸液操作に関する助言

4. 摂食・嚥下障害について

嚥下機能の評価や胃瘻の適応の判定
最適な嚥下食の提案

※ 他にも栄養教育や栄養に関する研究に携わっています。

*呼吸商

呼吸の際に消費した酸素量に対する二酸化炭素の生成量の割合。



病診連携・病病連携の取り組み

患者支援センター

患者支援センターは、患者さんの支援と地域医療機関との連携推進部門として、「地域医療連携」「予約管理」「医療福祉相談」「病床管理」「継続看護」の機能を統合的に実施していますが、今回は病診連携・病病連携に関する取り組みをご紹介します。



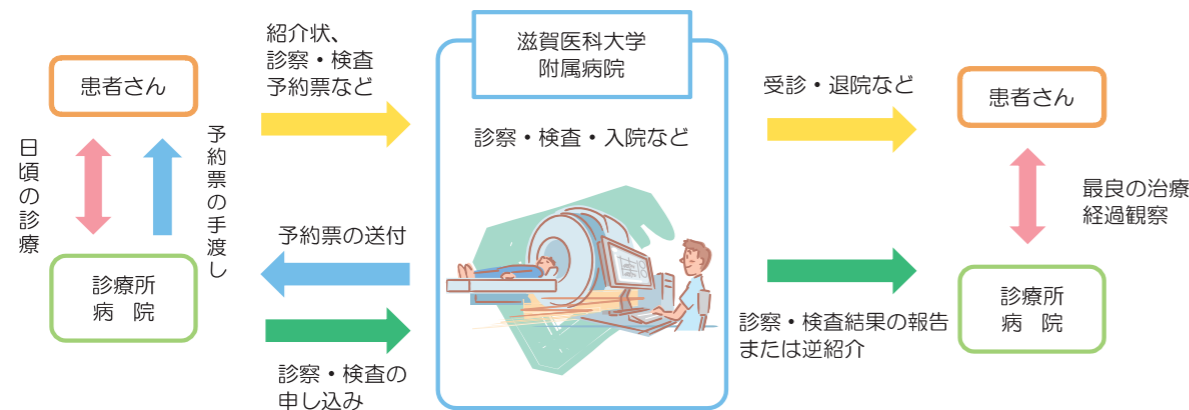
病診連携・病病連携とは

病院と診療所、あるいは病院同士の連携を指します。病院と診療所とがそれぞれの役割を分担しつつ、それぞれの機能を最大限に発揮することで、患者さんに効果的なケアを受けてもらうためのものです。

大きな病院が風邪などの軽い病気まで引き受けてしまうと、専門的な診療を必要とする患者さんに医療が行き届かなくなります。そこで、患者さんにはまず地域の病院や診療所を受診していただき、専門的な検査や治療が必要と判断されてはじめて紹介していただきます。また、病状が軽くなると元の医療機関へ逆紹介をし、継続して治療を受けていただくことで、地域ぐるみの医療の推進に貢献するものです。

地域医療機関からの診察・検査予約業務

地域医療機関の先生方から診察および検査予約で当センターを利用いただきますと、事前に予約日時を決定し、紹介患者さんがスムーズに診察を受けられるように手続きをいたします。



患者支援センターが行っている「病診連携・病病連携」関連のその他の業務

産科オープンシステム

産科オープンシステムは、産婦人科医の減少にともない分娩の取り扱いを中止する医療機関が増加する中、妊娠・出産における安全性の向上を図るため、新たな診療形態の一つとして生まれたものです。

本来のオープンシステムは、妊婦健診を診療所で行い、患者さんが分娩やその他の異常で病院に入院した後も、診療所医師が主治医としての責任を持って分娩や手術にあたるシステムです。病院の医師は診療所医師と共同で診療にあたるのですが、当院の産科オープンシステムは、妊婦健診は紹介元の診療所・病院で行い、患者さんが当院に入院した後は、当院の医師が主治医としての責任を持って分娩や手術を行うセミオープンシステムの形態をとっており、紹介元の診療所医師・病院勤務医が当院医師の主導のもとで分娩や手術を行うことも可能となっています。

当システムは地域の医療機関と緊密に連携し、相互の協力のもと、効率的かつ安全で快適な分娩を通じて地域住民に貢献することを目的として平成18年1月より開設されました。

当システムの利用をご希望の場合は、まずはかかりつけの診療所または病院にご相談ください。

地域連携インプラントシステム

◆インプラント◆

歯がなくなった時の治療法として、以前は義歯（入れ歯）やブリッジ（健康な歯を削って連続した金属冠を入れる治療法）が主流でした。しかし、最近では顎骨にインプラント（人工歯根）を埋め込み、その上に補綴物（義歯、ブリッジ、インプラントなどの人工物）を装着する「インプラント治療」が発達し、この治療を受ける患者さんが多くなってきています。

当院では平成18年度より地域連携インプラントシステムを開始し（現在、登録医67名）、多くの患者さんから「良く噛めるようになった」と喜んでいただいています。

当システムは、インプラントの埋め込みなどの外科的手術を当院が行い、その後の治療は、紹介元の医療機関で行ったり、症例によってはすべての治療を当院で行うなど様々な対応が可能です。

◆顎矯正◆

当院では、顎の骨の大きさの不調和によりうまく噛めない患者さん（顎変形症）に対して、平成18年より地域連携顎矯正システムを開始し（現在、登録医10名）、近隣の矯正歯科専門医と連携して、歯列矯正治療と外科矯正手術の治療を行っています。

治療により見た目の改善だけでなく、良く噛めるようになることから、日常生活において大きな改善が認められます。

また、顎変形症の治療についても当科で相談を受けているほか、永久歯が生える時期が遅れている、永久歯が骨などに埋まっている症状に関しても、「地域連携顎矯正システム」登録医と連携して、埋まっている永久歯を牽引・誘導し、歯列に加える治療も行っています。

セカンドオピニオン外来（自由診療）

当院のセカンドオピニオン外来は、当院以外の医療機関で診療を受けている方を対象に、「他の医師の意見も聞き納得して治療を受けたい」というご要望に応え、現在の主治医から与えられた診断・治療の資料から今後の治療に関する意見を提供し、参考にさせていただくことを目的としています。また、当外来は診察ではないので、検査や治療行為（薬剤投与・処置）は行いません。

相談内容の例示

- 外科的治療法と内科的治療法で迷われているとき
- 現在の治療法に不安を感じているとき
- 大きな外科的手術を受けるように勧められているとき

お受けできない相談事項

- 過去の医療に関する事項で主治医等に対する不満、転医希望等
- 医療訴訟の問題等、直接の治療以外に関するもの
- 医療費の内容、医療給付に関わること

料金相談時間

- 自由診療です（健康保険は使用できませんのでご注意ください）。
- 1回31,500円（原則として30分～1時間以内）

※ 相談される疾患の専門知識を有する医師が相談をお受けしますが、対応できる専門医が当院に不在の場合、お受けできないこともあります。

※ 相談内容によって、セカンドオピニオン外来ではなく、一般外来の受診をお勧めする場合があります。

※ セカンドオピニオン報告書は、原則として当院から主治医宛に郵送します。

詳細および申込用紙のダウンロードはウェブサイトをご覧ください。

当院HP > 診療科一覧 > セカンドオピニオン外来

(http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/special_opd/secondopinion/)

医療福祉相談（医療ソーシャルワーカー）

患者さんの社会的・経済的・心理的問題について、社会福祉の立場から相談を受けるほか、地域の保健医療福祉機関との連携についての業務を行います。また、看護師と共同して転院および退院調整を行います。

継続看護

診療所・保健所／センター・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション等と連携し、退院調整と外来通院患者さんの連絡・調整を行っています。

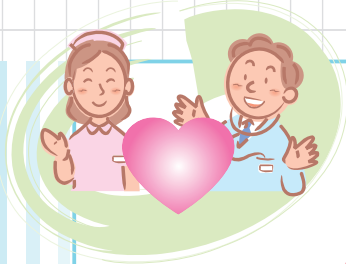
患者支援センターHP：当院HP > 診療科一覧 > 患者支援センター

(http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/clinic_education_research/support/)



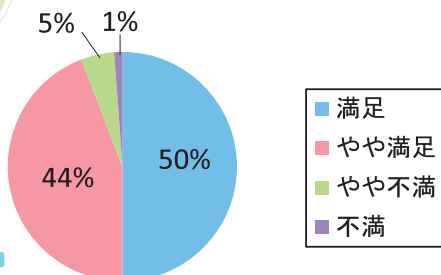
患者満足度調査の結果について

患者サービス向上委員会

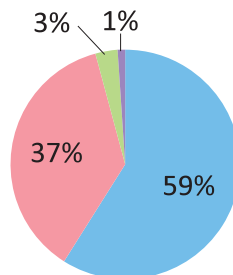


全体的にこの病院に満足していますか

外来



入院



平成24年10月31日(火)に、入院・外来患者さんを対象に、患者満足度調査を実施しましたので、その結果をご報告します。

皆さんからいただきましたご指摘、感謝のお言葉、当院に対するたくさんのご意見をもとに、信頼・安心・満足していただける病院を目指し、今後も医療の提供、サービスの向上に努めてまいります。

多くの患者さんにご協力をいただき、誠にありがとうございました。

附属病院内簡易郵便局が リニューアルオープン

病院管理課

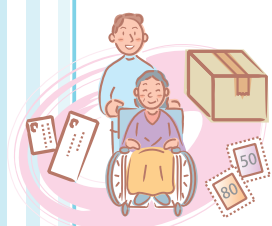
院内簡易郵便局の改修工事が終了し、3月4日(月)にリニューアルオープンしました。

新しい院内簡易郵便局は、落ち着いた色調で局内を統一し、待合スペースやカウンターを拡張することで、郵便業務2名、ゆうちょ銀行業務1名の3名で対応することが可能となりました。

出入口は、幅を従来のほぼ1.5倍にし、さらに引戸に変更することにより車いすでも利用しやすくなりました。また、カウンターは、一部低めのものにするので、車いすで利用される方や、大きめの荷物(ゆうパック)を依頼される方の負担を軽減しました。

従来の簡易郵便局にはなかった個別の相談室も新たに設置しています。

是非ご利用ください。



利用時間 9:30~15:30 (月~金) 土・日・祝は休業

滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

滋賀医大病院ニュース第38号

編集・発行: 滋賀医科大学広報委員会

〒520-2192 大津市瀬田月輪町

TEL: 077(548)2012(企画調整室)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。

●理念を実現するための基本方針

- 患者さん本位の医療を実践します
- 信頼・安心・満足を与える病院を目指します
- あたたかい心で最先端の医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 世界に通用する医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します